

解答例 「近現代のアジアと日本」(2011年度前期) 試験

1. 第一次世界大戦の後、下記の条約が調印された歴史的背景とその意味について述べなさい(100字程度)。
戦争放棄に関する条約 1928年8月27日

第1条 締約国は、国際紛争解決のために戦争に訴えることを非難し、かつ、その相互の関係において国家政策の手段としての戦争を放棄することを、その各々の人民の名において厳粛に宣言する。

第2条 締約国は、相互間に発生する紛争または衝突の処理または解決を、その性質または原因の如何を問わず、平和的手段以外で求めないことを約束する。

【解答例】

毒ガスや戦車が使われ 1100 万人が戦死するなど第一次世界大戦は大きな被害を与えた。そのため国際紛争解決の手段としての戦争を禁止する国際世論が高まってこの条約が結ばれ、その精神は日本国憲法にも引き継がれた。(102字)

2. 中華人民共和国の国歌(義勇軍行進曲)は、元来、映画の挿入歌として作詞作曲された時代背景と、それが 14 年後に国歌に採用された理由について、講義やテキストの叙述を参照しながら簡潔に記しなさい(100字程度)。

【解答例】

1930 年代半ばの中国では、日本の華北分離工作に対し民族的危機感が高まった。その中で作られた義勇軍行進曲は抗日戦争中も多くの人々によって歌い継がれ、国民の団結を象徴する歌として人民共和国の国歌に採用された。(103字)

3. 中国統一化論争で矢内原忠雄は次のように主張した。南京政府(国民党政権)の施策の主な内容を記しなさい(100字程度)。
「支那社会の発展方向が資本主義化にあり近代的統一国家にあることは疑ふを得ざる事実であり、而してその発展の担当者が浙江財閥によつて支持せられるところの南京政府であることも亦、一の社会的必然の事実であつて決して偶然の出来事ではなく、況んや蒋介石一個人の個人的勢力によるのではない。(中略)

支那問題の所在は以上の如くであり、その中心点は民族国家としての統一建設途上に邁進するものとしての支那を認識することにある。……此の認識に基きて支那の民族国家的統一を是認し之を援助する政策のみが、支那を助け、日本を助け、東洋の平和を助くるものである。この科学的認識に背反したる独断的政策を強行する時、その災禍は遠く後代に及び、支那を苦め、日本の国民を苦め、東洋の平和を苦めるであらう。」【出典】『中央公論』第52巻第2号、1937年2月

【解答例】

関税自主権を回復して保護関税を設け国内産業の保護と発展を図るとともに、幣制改革を実施し通貨の統一と安定化を実現した。こうした経済政策に加え、政治面、軍事面での中央集権化政策も推進し、中国の統一を強化した。(102字)